

ジェローム・グランジョン氏(パリ地方音楽院ピアノ科教授、リヨン国立高等音楽院ピアノ科教授)
による海外教員招聘マスタークラス
2019 年12 月19 日(月) L506教室

ジェローム・グランジョン氏は、若くして国立パリ高等音楽院ピアノ科、室内楽科を一等賞で卒業し、チッタ・ディ・セニガリア国際ピアノコンクール入賞。世界各国での演奏会やのオーケストラと共演、教育者としてアジアを含む世界各地でワークショップを行うなど多岐に渡る活動を展開。

現在、パリ地方音楽院とリヨン国立高等音楽院のピアノ科教授として、毎週パリとリヨンを往復しています。

レパートリーも広く、CD のソロアルバムで 2019 年春にはシューマンピアノ曲、今秋にバッハ平均律クラヴィーア曲集を発売。

私とは、昨年ピアノ雑誌月刊ショパンでの「フランスのピアノ教育の今」(成人編)の取材でお目にかかり、今回洗足にお招きしました。



洗足音大校門前のジェローム・グランジョン氏と筆者

洗足音大では初めての招聘で、学部生2名、院生3名の5名が受講。

曲目は、

スクリャービン / 24の前奏曲 作品11

ベートーヴェン / ピアノ・ソナタ 第31番 変イ長調 作品110

ラフマニノフ / ショパンの主題による変奏曲 作品22

ショパン/ピアノ・ソナタ 第2番「葬送」変ロ短調 第1楽章 作品35

スクリャービン / ピアノ・ソナタ 第2番「幻想ソナタ」op. 19 嬰ト短調

どの学生にも「あなたはこの曲をどのように弾きたいか？」というフランスのピアノ教育の基本ともいうべき、自分の意見を持つことの大切さを問います。テクニク的に難しい曲では、弾くことだけに集中しがちですが、弾くことから離れて楽譜をよく見る事、曲の構成を考える事で音楽が流れることに気付かせるレッスンでした。テクニク的に難しい部分の片手ずつの練習や、連打音の力の抜き方等、具体的な指導で、1時間のレッスンで誰もが確実に上達しました。(ピアノ講師 末高明美)



L506 教室のレッスン風景